

インターバンクの声（2014年7月11日）

もはや過去の話と思い込み始めていたが、どっこいギリシャの財政問題に端を発した南欧諸国の経済危機は未だ片付いてはいないようだ。ポルトガル上場銀行の親会社の健全性をめぐる不安やイタリアの経済指標の悪化などの理由から、またしても安全資産とされる円買いに拍車が掛った。何かと日本の財政赤字が取り上げられることも多くなってきたが、こうした円買いの動きがあるたびに、まだ多くの投資家が日本の財政危機が喫緊の問題としては考えていないとも感じさせられてしまう。それはともかく、ポルトガルの銀行問題から欧州の主要株価が大きく下落、米株式市場も利益確定の売りも手伝って下げから始まったが、終盤には下げ幅を縮小している。株価だけでなくその他の商品市況も大きな下落から急回復を見せたこともあり、ドル円相場もニューヨーク市場序盤の101円割れ寸前のレベルからドルが戻して引けた。それでも市場にはもう少し円買いを進めたい動きが残っており、ドルの買い戻しはもう少し我慢しても良さそうだ。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。